

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171800533		
法人名	社会福祉法人 草加こだま会		
事業所名	グループホーム川柳		
所在地	埼玉県草加市青柳8丁目29-12		
自己評価作成日	令和元年10月5日	評価結果市町村受理日	令和 2年 2月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和1年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ややレトロであたたかみのある雰囲気の中、利用者様と職員が共同で過ごすことができる。 ・併設の保育園の園児とのふれあいの機会をもつことで、利用者様の笑顔を引き出すことができる。 ・利用者様一人ひとりの状況を把握し、個性の高いケアを目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の食事状態を観察し、利用者に適した食形態で提供する事や食事中は集中して食べてもらえるようにテレビを消し、食事前には誤嚥防止の為に嚥下体操等の取り組みをおこなう事で、利用者が安全に生活出来るように支援している。同法人の保育園児が定期的に来所しており、一緒に歌を歌い、敬老の日には園児からメダルのプレゼントをもらった。園児の頭を撫で、「いい子だね」と言いながら喜ぶ利用者の姿が見られ、園児との交流を通して楽しみを持つ事が出来ている。家族の面会時に、近隣の店と一緒に買い物に出掛けられるように支援している。それは、他者に提供してもらう生活ではなく、利用者自身が店で物を確認して選ぶ事により、利用者の自立を支援し、地域の中で生活者として過ごせることを願っておこなっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共同生活がスムーズに行えるよう支援するとともに、地域の方が参加できる催し(納涼会等)も行っている。	法人理念と事業所理念があり、玄関に掲示している。管理者は、個々の職員に浸透していないと感じており、今後、利用者の自立支援と地域に根ざした生活が出来るように職員と共にこなしていこうとしている。	全職員が、同じ思いを持って利用者支援に当たれるように、目標の共有と共に実践に繋ぎ、今以上に個別性の高い支援につながる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所のお店での買い物や外食を行うとともに、納涼会には近所の各町会の方々が参加し、地域との交流をはかれるよう心がけている。	散歩中に、近隣住民と利用者が声を掛け合う関係がある。納涼祭は、自治会役員からも馴染みの行事となっており、地域のボランティア参加もある。同法人の保育園児と交流があり、利用者はとても喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の保育園の園児との定期的な交流会や、地元の中学校の生徒の職場体験受け入れ等をおして、認知症への理解を深めていただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催し、圏域の地域包括支援センター職員、民生委員の参加により、ヒヤリハットや事故報告書に基づく再発防止に向けての取り組み、人員配置及び体制等についての話し合いを行っている。	参加者から、外食企画の為の飲食店情報や事故発生後の対応等のアドバイスをもらった。事故を最小限に防ぐ工夫として、転倒時の衝撃緩和の為に、床に緩衝材を貼る等意見を反映して支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者のご利用が多いため、市の保護担当部門との連絡を密に行っている。また、実地指導で指摘された事項の見直しをはかり、業務改善に努めるとともに、市に実施状況を伝えるようにしている。	市や県社会福祉協議会等から研修案内があり、都合が付く場合に参加している。管理者は、市担当部署に書類の提出に出向いたり、メールや電話を使って、担当者と定期的に連絡や報告をおこない関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、自施設内で拘束が行われていないかの検証を行っている。また、施設内研修の開催や資料配布等、外部研修への職員派遣も行っている。	拘束となる具体的な内容や実際におこなわれていないか確認している。言葉による抑制についても不適切な発言が見られた場合は、管理者が注意喚起している。利用者から外出希望がある場合は、その都度対応して思いに沿った支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場研修を実施するとともに、細心の注意をはらい、小さなことでも見過ごさないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用している方が入居されていたため、知識・経験は備わっている。必要がある場合、ご家族・関係者と協議する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族に理解しやすいよう、書面だけではなく、わかりやすい言葉での説明を心がけている。入居・退去に際しては、特に金銭面での不都合が生じないよう十分な説明を行い、納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一部を除き、ご家族の面会回数が少ないため、ご家族の意見・要望を十分に聞けているとは言い難い状況である。しかし、利用者様の声には常に耳を傾け、要望にこたえるよう努めている。	家族の面会時や電話等の機会を用いて意見を聞いている。管理者は、家族の個別性や入居に至るまでの気持ちを理解して声を掛けるようにしている。意見を受けた場合は、経営者や職員と話し合い対応する。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、意見交換を行っている。また、新たにリーダーミーティングを毎月開催し、利用者様それぞれの抱える課題を職員間で共有、解決に向けて動く仕組みづくりに取り組んでいる。	毎月の会議等や理事長代行が職員に声をかけ、話を聞く機会となっている。職員の意見から、おむつ等の補充集計を個数から日にちにした事で、利用者のおむつの使用ペースを把握する事が出来るようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の職員の状況を把握し、働きやすさややりがいを感じ、日々の業務にあたるよう、代表者に伝えるようにしている。また、理事長(または理事長代行)との面談も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成が十分に行われているとは言い難い状況のため、月1回、施設内勉強会を実施するとともに、認知症ケアに関する研修をはじめ外部研修に職員が参加できるよう、シフトを工夫している。無資格の職員の資格取得にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム事業者連絡会への参加により、同業者との情報共有を行っている。また、外部研修への積極的な参加により、さまざまな事業者との交流の機会をもつことが期待できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ストレスや混乱等が起こらないよう、また安心して過ごせるよう、利用者様のお話を傾聴し、ラポール形成に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階から、十分にお話を聞き、ニーズ把握に努めるとともに、信頼関係を築くことに注力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族も含めたクライアントシステムに着目し、本人・家族にとって何が必要かを見極め、スクリーニングすることが重要であると考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の自立支援をめざし、家事仕事やできることは、職員と一緒にを行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族を一つのシステムとしてとらえ、協力体制を構築するよう努めている。また、近況をこまめに報告する等により、ご家族にも安心していただけるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴の把握に努めているものの、これまでの馴染みの人や場所との関係を継続させる支援には結びついていないと考える。	入居前の利用者実態調査時に、家族や関係者等から利用者の生活歴等を聞き、把握している。家族と墓参りに行く事や居室で植物を育てる、新聞のパズルをする等以前の趣味が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの状況や個性を把握し、その人に合った利用者様同士の関係を構築できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了(退去)に際しては、ご利用いただいたことへの感謝の気持ちを伝えるとともに、それぞれの状況に応じた事後対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの状況を把握し、その人らしい生き方が続けられるよう努めている。	利用者との日常会話の中から職員が意向を聞く。普段と違う発言があった場合は、記録に残し、介護計画変更時に参考にする。言葉で伝えにくい利用者の場合は、表情や家族から話を聞き意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基本に、職員間での情報共有や、本人との会話をとおして、これまでの暮らしを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェック、食事量の変化、運動やレクリエーション等をおして、現状を把握できるよう努めている。また、ちょっとした会話内容から、本人の希望や不安・不満等を理解できるよう、利用者様との会話を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成し、本人・家族の同意のもと実践するよう努めているが、職員に十分周知できていない状況である。	定期的にモニタリングし、介護計画を見直すと共に、身体状況の変化時や退院後等は、その都度状態にあった内容に変更する。話し合いに利用者、家族が参加する場合もあり、薬剤師等の情報も参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録用紙への記入を徹底し、職員間での情報共有に努めている。また、定期的にリーダーミーティングを行い、計画の見直しに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応し、その人らしく生活できるよう、ストレンスを最大限に引き出す支援を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所や圏域の地域包括支援センターに状況を把握していただき、さまざまな相談ができるよう、運営推進会議等への参加を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能な協力医を確保し、体調の急変にも対応できる体制を構築している。受診には職員が同行し、家族へのこまめな報告を行っている。	訪問診療の結果は、薬の変更等があった場合に家族に連絡をおこなっている。専門医に通院する場合は、職員が同行して日常の様子を医師に伝え、受診結果等の情報は、記録に記載して職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置されていないため、日ごろから利用者様一人ひとりの体調の変化に配慮し、必要に応じて近隣の協力医への連絡や受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日ごろから利用者様の状態把握に努め、入院時には必要な情報を速やかに提供できる体制づくりを心がけている。退院時には看護サマリーの提供を依頼し、職員間で情報を共有して、退院後の生活に問題が生じないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約段階で、看取りは行っていないこと、重度化した場合は施設を移ることになる旨の説明を行い、ご家族の同意をいただいている。また、近隣の他施設の情報収集に努めている。	重度化した場合の目安があり、その状態に至った時は、管理者等が家族と今後について話し合いを持つ。家族の了解を得て他施設を探し、情報収集をおこなう。転居先の施設等の要望に応じて、利用者情報を提供して生活継続の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しているが、実地に使用したことはない。全職員が講習等に参加し、救命救急についての知識を身につけるとともに、定期的な訓練を行う体制を構築する必要があると考える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施している。近隣の消防署から職員に来ていただいた訓練も行っている。	火災や地震、水害の訓練をおこなうと共に、マニュアルを作成し、備蓄品の用意をしている。フロア内に「緊急対応」を掲示し、連絡先や地域の避難場所、確認事項等が記され、緊急時に確認出来るようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男女・年齢にかかわらず、平等に礼節をもって対応するよう心がけ、愛情と優しさのある対応にも配慮している。	利用者に対して、否定的な言葉の使用や気持ちに沿わない声かけはしないようにしている。申し送り時の声の大きさや記録の扱い等に配慮し、不適切な声かけがあった場合は、管理者がその都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定をうながす取り組みに努め、決めつけることのないよう提案したり、ヒントを出し、本人が決められる環境をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に強要することはせず、プログラムへの参加の可否を決めていただいている。楽しく、気軽に参加していただけるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を2か月に1回程度利用している。本人の希望、イメージを伝えられるよう支援し、女性の方には軽いメイクやネイルケア等も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き等、できることは手伝っていただき、楽しく安全に食事できるよう配慮している。また、畑で採れる食材を調理することもある。	おやつレクの盛り付け時に、自分でおこなえる様に声掛けし、利用者自身が選んで作る楽しさを提供している。畑の野菜は、利用者も水やりをしており、収穫した野菜等を食材として使い、旬の物を味わう事が出来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態、食事量、食べやすい形状等に常に配慮している。特に脱水予防のため、時間を決めて水分摂取をすすめ、1日の水分摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後に口腔ケアを行っていただいている。ご自身でできない方は職員が介助して、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレで排泄していただいている。夜間帯、トイレに行くことが難しい利用者様には、夜間用の大パッドを使用いただき、定時の声かけ・確認により、清潔に過ごせるよう支援している。	排泄表の活用や利用者の習慣、サインを見逃さず個々に支援している。パンツ型オムツやパッド等の使用開始時は、利用者の意思や状態を理解しながら、申し送りや話し合いをし、無理強いしないように進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を加えたコーヒーを飲んでいただいたり、1日をとおして十分な水分摂取をしていただけるよう配慮している。また、軽体操のプログラムを毎日取り入れ、身体を動かしていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別対応は困難だが、週2回の入浴で、清潔保持に努めている。	入浴拒否のある場合は、本人の希望に合わせて、順番等を考慮している。羞恥心への配慮として、肌タオルを掛け、希望により同性介助の対応をする。ゆず湯等をおこない楽しんで入浴出来るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回リネン交換を行い、清潔な状態でお休みいただけるようにしている。また、夜間帯の室温管理にも配慮し、安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の薬剤管理指導を導入し、一人ひとりに適した服薬ができるようにしている。また、職員が複数回チェックを行うことで、服薬漏れを予防するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生会や季節のイベントなどを企画し、職員と利用者様との交流をより深めることで、張り合いや喜び、楽しみのある時間を過ごしていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭の散歩や近くのお店への買い物支援等を行っている。また、お花見を兼ねたドライブ、外食などのイベントも定期的実施している。	利用者の体調や気分に合わせて、近隣公園への散歩や前庭で外気浴、体操をおこなっている。利用者の食事形態や身体状態に合わせた外食や衣類等の買い物は、職員と個別で出かけ、全員で行く花見のドライブは、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理できる方には財布を持っていたり、買い物をした際には職員が同行し、近くのコンビニ等に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に電話をかけたいという方には、自由に掛けていただくことで、不安を取り除き、安心できるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せる壁飾りやカレンダーを壁に張ったり、イベント時の写真を飾るなどして、フロアにて楽しく、気持ちよく過ごしていたり、ただけのよう工夫している。	季節の壁飾り等を制作、掲示する事で、利用者は今の季節を感じる事が出来、掲示しているイベントの写実は家族が面会時に見て喜び、利用者は見て楽しんでいる。新聞や雑誌は手の届く所に置き、誤食をしないように、物品の配置を考慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を設置し、一人で休んだり、おしゃべりを楽しんだりできるようにしている。また、気の合った利用者様同士で会話できるよう、お席の配慮もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の好みのものを持ち込み、置いていただいている。室温管理等は、本人の希望を聞きつつ職員が行い、快適な状態を保持できるよう努めている。	居室の表札は、利用者が分り易いように個々にデザインを変えている。居室では、テレビ視聴やラジオを聴いて自分の思うように過ごしてもらい、転倒予防にベッド下にマットレスを敷く等、安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室前に、一人ひとり異なった名札を掛け、ご自分の部屋がわかりやすいようにしている。トイレや階段等もわかりやすいよう、案内表示をつけている。		